

November 19, 2021

【前日の為替概況】ドル円、予想を上回る米経済指標を受けて 114.48 円まで堅調推移

18日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは上昇。終値は1.1371ドルと前営業日NY終値(1.1319ドル)と比べて0.0052ドル程度のユーロ高水準。米10年債利回りが1.57%台に低下したタイミングでユーロ買い・ドル売りが進行。ユーロ豪ドルやユーロポンドなどユーロクロスの上昇につれた買いも入り、一時1.1374ドルと日通し高値を更新した。

ドル円は反発したものの、大きな方向感は出なかった。終値は114.26円と前営業日NY終値(114.08円)と比べて18銭程度のドル高水準。11月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数や10月米景気先行指標総合指数が予想を上回ったことで円売り・ドル買いが先行。24時過ぎに一時114.48円と日通し高値を更新した。ただ、ダウ平均が一時270ドル超下落し、米長期金利が低下に転じるとドル円にも売りが出て114.16円付近まで押し戻された。もっとも、ダウ平均が下げ幅を縮小し、ナスダック総合がプラス圏を回復するとドル円への売り圧力は後退。引けにかけては114.20円台まで持ち直した。

ユーロ円は反発。終値は129.93円と前営業日NY終値(129.14円)と比べて79銭程度のユーロ高水準。前日のNY午後と本日の東京午前に129円手前で下値の堅さを確認すると、買い戻しが優勢となった。全般ユーロ買いが進んだ影響もあって一時129.95円と日通し高値を更新した。

なお、ユーロ豪ドルは一時1.5649豪ドル、ユーロポンドは0.8427ポンド、ユーロカナダドルは1.4359カナダドル、ユーロスイスフランは1.0526スイスフランまで値を上げた。

南アフリカランドは対ドルで一時15.7657ランドと昨年11月以来約1年ぶりの安値を付けたほか、対円では7.25円と8月24日以来約3カ月ぶりの安値を更新した。南アフリカ準備銀行(SARB)が政策金利を現行の3.50%から3.75%に引き上げたと伝わると、買い戻しが先行したものの、反応は一時的だった。

クガニャゴSARB総裁は会見で「総合インフレ率の軌道と上方リスクを踏まえて、インフレ期待を抑制し、主要政策金利の将来的な道筋を緩やかなものにするためには、緩やかな利上げで十分と判断した」などと発言。「金融政策の引き締めペースは市場が織り込むペースよりも大幅に緩やかなものになる可能性がある」との見方が浮上した。市場では「トルコリラの急落を受けて新興国通貨に売りが波及した」との指摘もあった。リラは対ドルで11.3118リラ、対円で10.10円まで急落し、史上最安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米10年債利回り1.58%台で伸び悩む展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、WTI原油先物価格が79ドル付近で推移し、米10年債利回りが1.58%台で推移していることで上値が重い展開が予想される。

本日は、戦略石油備蓄(SPR)の追加放出を検討している米国が、日本、インド、中国などにも戦略石油備蓄の放出を検討するように要請していることで、時間外のWTI原油先物価格の動向を見極めていく展開となる。

本日のドル円のオーダー状況は、114.20円の23日のNYカットオプションや114.25円の25日のNYカットオプションを軸にして、上値には、114.50円にドル売りオーダー、114.80-115.00円に断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、114.00円に19日と24日のNYカットオプション、113.70-80円に断続的にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

ドル円のテクニカル分析では、10月20日の高値114.70円の時の相対力指数(RSI)は75.02、11月17日の高値114.97円の時のRSIは56.17となっており、上昇エネルギーの枯渇を示唆する逆行現象(ダイバージェンス)により、調整局面入りの可能性が示唆されている。

8時30分に発表される10月全国消費者物価指数(CPI、生鮮食品を除く総合)の予想は前年比+0.1%で、9月の前年比+0.1%と同じ上昇幅が見込まれている。先進国の10月の消費者物価指数は、米国が前年比+6.2%(コア指数+4.6%)、ユーロ圏が前年比+4.1%(コア指数+2.0%)、英国が前年比+4.2%(コア指数+3.4%)と上昇しており、原油価格や資源価格の上昇やサプライチェーン(部品供給網)の混乱が反映されたインフレ高進となっている。日本の10月の企業物価指数は前年比+8.0%となり、第2次石油ショックの影響を受けていた1981年1月の前年比+8.1%以来、約40年ぶりの高水準を記録している。上流の生産者段階の物価上昇が下流の消費者段階に反映しない構図は、おそらく巷間言われているように、日本銀行のリフレ政策が間違っているからなのかもしれない。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 10 月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比 0.1%）
- 08:30 ☆ 10 月全国 CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比▲0.7%）

<海外>

- 09:01 ◇ 11 月英消費者信頼感指数（Gfk 調査、予想：▲18）
- 16:00 ◇ 10 月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比 1.9%）
- 16:00 ◎ 10 月英小売売上高（自動車燃料含む、予想：前月比 0.5%／前年比▲2.0%）
- 16:00 ◎ 10 月英小売売上高（自動車燃料除く、予想：前月比 0.6%／前年比▲3.1%）
- 16:00 ◎ 7-9 月期ノルウェー国内総生産（GDP、予想：前期比 3.3%）
- 17:30 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 18:00 ◇ 9 月ユーロ圏経常収支（季節調整済／季節調整前）
- 21:00 ◎ ピル英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 22:00 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- 22:30 ◎ 9 月カナダ小売売上高（予想：前月比▲1.7%／自動車を除く前月比▲1.0%）
- 20 日 00:45 ◎ ウォラー米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 20 日 02:15 ◎ クラリダ FRB 副議長、講演
- インド（シーク教ナナック生誕日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

18 日 06:16 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「年末までに失業率が 4.5%になっても驚かない」

19 日 04:21

「2022 年まで米国経済には強いモメンタムが期待される」

「失業率は来年 4%を下回ると予想」

「サプライチェーン問題は修正されるだろう。ただ、予想よりも長引く可能性」

「利上げはテーパリング終了後か 2023 年に始まる可能性」

18 日 18:08 米格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ (S&P)

「恒大集団のデフォルトの可能性は依然として高い」

「恒大集団にとっての大きな試練は、多額の返済が予定されている来年 3 月と 4 月」

「恒大集団の主要なビジネスモデルは事実上消滅している」

18 日 20:15 トルコ中銀声明

「国内の経済活動が引き続き堅調であることを示している」

「金融政策がコントロールできない供給側の要因などによる物価上昇への一過性の影響が、2022 年前半まで続く」と予想」

「利下げ終了を 12 月に見極め」

「強力な指標がインフレの恒久的な低下を示し、物価安定の主要な目的を追求して中期的な 5%の目標が達成されるまで利用可能なあらゆる手段を講じる」

18 日 22:12 南ア準備銀行 (SARB)

「2021 年の平均消費者物価指数 (CPI) は 4.5% 予想 (前回 4.4%)、2022 年は 4.3% 予想 (前回 4.2%)」

「2021 年のコア CPI は 3.0% 予想 (前回 3.0%)、2022 年のコア CPI は 3.7% 予想 (前回 3.8%)」

「短期的なインフレリスクは上方サイド」

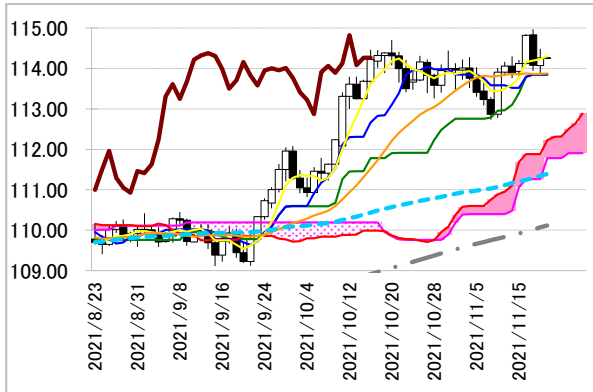
「現在のランドは均衡水準よりも低い」

19 日 03:59 バイデン米大統領

「北京五輪の外交的なボイコットが検討されている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

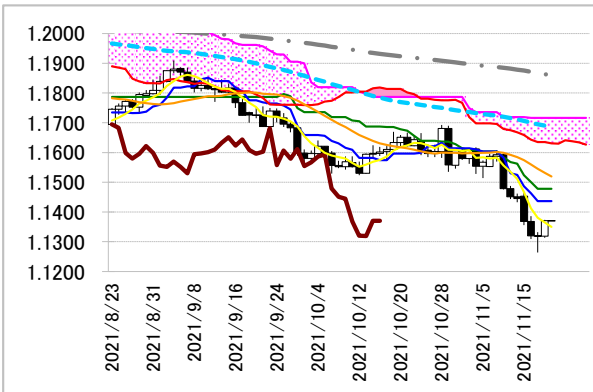


<ドル円=11/17 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線と同値、運行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、高値圏での逆行現象で反落しており、上値は重い展開が示唆されている。

本日は、11月17日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	115.51 (2017/3/10 高値)
レジスタンス 1	114.97 (11/17 高値)
前日終値	114.26
サポート 1	113.85 (日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	113.26 (10/28 安値)

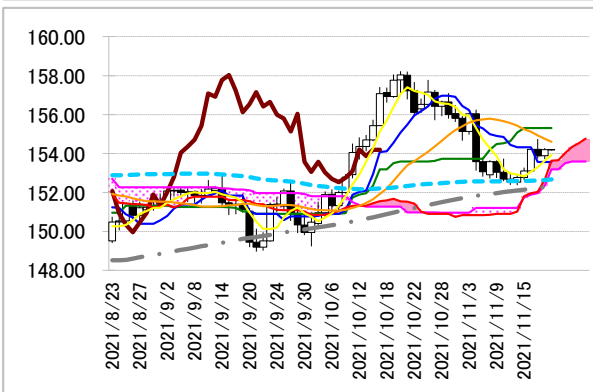


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、運行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。6手連続陰線で下落後、抱き線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1436 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1371
サポート 1	1.1264 (11/17 安値)

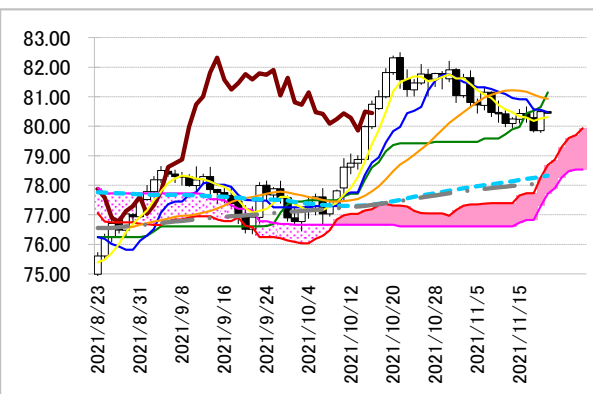


<ポンド円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、運行スパンは実線を下回り、雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、孕み線で反発し、転換線を上って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	155.30 (日足一目均衡表・基準線)
前日終値	154.20
サポート 1	153.56 (日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円=11/18 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、運行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。抱き線で反発し、転換線を上回りつつあることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線 80.48 円を念頭に置き、11月18日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	81.14 (日足一目均衡表・基準線)
前日終値	80.50
サポート 1	79.77 (11/18 安値)

